

ABCクッキングスタジオの冒険 難民の美味しい笑顔を夢見て

ABC

Cooking Studio

株式会社 ABC Cooking Studio

「難民には興味がないヒトでも、難民の食べてるモノには関心があるんじゃないですか」

2006年2月13日に行われたタイのタムヒン難民キャンプでの味の交流は、そんな一言から始まった。難民のキャンプでの食生活は単調だ。どうせ行くのなら難民の食生活を調査するだけでなく、彼らに世界中で人気の日本料理を届けよう。ただ、高価な食材を持ち込んで1回だけのご馳走を作るのではなく、現地で調達できる食材を使って難民が普段食べられるレシピを置き土産にしよう。そんな我が儘な願いを叶えてくれたのが、ABCクッキングスタジオの横井社長（現（株）ABC HOLDINGS 代表取締役）と山田シェフだった。それどころか「減多にない機会なので、ABCの生徒に難民の料理を習わせたいんですけど」と横井社長の提案。日本料理を教える、難民の食事を調査する。そんな我々の心を蝕む傲慢さを清清しく打ち砕い

てくれた。その上横井社長自らスタッフを率いてキャンプまで同行する行動力。ABCクッキングスタジオ、伊達に19万人の女性生徒を集めていませんね。

山田シェフが工夫を凝らして考案したのが、肉じゃがと焼きおにぎりだった（編集部注：Refugee is... 第2号8頁参照）。その代わりにABCの生徒さんやUNHCRのインターンたちが、難民のお母さんたちからカレン族の伝統料理であるなまずのカレーや米粉のスープなどを教わった。

美味しい料理はどんな人でも自然に笑顔にさせる。たとえそんなには美味しくなくても（容赦なく辛かったりもするし）、皆で一緒に作る料理は楽しい。山田シェフとある難民のお母さんの顔がそっくりだったりすると、それだけ



難民キャンプのお母さんに焼きおにぎりの作り方を教える山田シェフ
©ABC Cooking Studio

で笑える。そんな話を友達にすると「肉じゃがの作り方教えるから、カレン族のレシピを教えてください」という可愛らしい記事にしてくれた（ソトコト2006年5月号）。

料理を通じた難民支援。ABCクッキングスタジオの冒険は始まったばかりだ。

関連情報：
<http://www.abc-cooking.co.jp/profile/v-report.asp>

山田レシピの 後日談

2007年2月26日、ユニクロの衣類を届けるためにタムヒン難民キャンプを訪れた日本からの訪問団に難民のお母さんたちが暖かい手料理で出迎えてくれた。「私たち日本料理作れるのよ」とちょっと誇らしげ。

ひょっとして…やはり…振舞ってくれたのは山田シェフ直伝の「焼きおにぎり」と「肉じゃが」だった。焼きおにぎ

りはそれなりの三角にニギニギまとまっていた。肉じゃがは馴染みの味よりかなりスパシーな味付けに変貌していたが、山田シェフのレシピがカレン族のお母さんたちに引き継がれ、新しい

お袋の味としてキャンプのみんなに愛されていると実感した瞬間だった。

帰国後、山田シェフに報告したところ、「めっちゃ嬉しいです」と感動しつつ、「横井社長の許可があれば、またいつでも難民キャンプに行きますよ」と宣言。横井社長、山田シェフ、次なるチャレンジはアフリカの難民キャンプでしょうか？



焼きおにぎりを楽しそうに作る女性たち
©ABC Cooking Studio